

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成29年度第4回情報教育研究委員会合同会議議事記録
情報教育研究委員会
情報リテラシー・情報倫理分科会
分野別情報教育分科会

I. 日 時：平成30年2月22日（木） 17：30～19：30

II. 場 所：私立大学情報教育協会会議室

III. 参加者：斎藤委員長、大原アドバイザー、玉田主査、和田委員、金子委員、中西委員、
児島主査、阿部委員、角田委員
事務局：井端事務局長、野本（記）

IV. 検討事項

1. 情報リテラシー教育モデルの授業方略と教材開発について、到達目標ABCに対応した3コマの反転授業モデルのビデオ教材を確認した。

(1) 到達目標Cの反転授業用教材について

- ・ 「情報通信システムの有益性」、「モデル化とシミュレーション」、「情報通信技術の動向」の3セット1コマ分として、説明と宿題提示の動画教材が提案され、下記のような意見があった。
- ・ 3セットあるのは、大学・教員・学生による格差による使い分けを考慮している。
- ・ 今回の教材内容を土台にして専門分野での授業と連結していくことを想定しており、カリキュラムにつながる形になることが望ましい。
- ・ 運用としては、宿題を授業前に提出させ、教員が予め対応を検討しておくことも考えられる。そのためにも、教員用の手引きなどのようなものが求められる可能性がある。
- ・ 「はじめに」の部分で到達目標Cが目指す修得内容の説明について、学生が各分野でのキャリアパスをイメージできるような説明などが追加できないか。学びの発展をイメージさせる資料として、どのような勉強が必要になるなどの説明ができないか。例えば、モデル化については、文系・理系でどのような学修をする必要があるのか要素を提示することができないか。
- ・ 教員用の参考資料として、JM00Cなどの外部教材の活用が考えられないか。

(2) 到達目標Aの反転授業用教材について

- ・ 「問題解決のコツを身につけよう」として問題解決の枠組みとポイント（コツ）の説明、及び目標を考えさせる宿題の動画教材が提案され、学生のワークシートと授業の流れが提示された。下記のような意見があった。
- ・ ワークシートでは、学生にゴールを考えさせるより社会を良くするなどの考え方を引き出すことができないか。例えば、歩きスマホの防止など例題を提示することにはどうか。
- ・ 授業の流れとしては、授業時間を90～100分で設定することにした。
- ・ 「問題解決にはレベルがある」の部分は、大中小を通じて関連する問題の視点で考えても良いのではないか。
- ・ 「問題解決手法」の説明では、技法の表示を減らした方が良いのではないか、技法の理解には実践が必要ではないか。

(3) 到達目標Bの反転授業用教材について

- ・ 「より良いネット社会を構築するために」として目標設定過程でどのような問題が起こっているかを情報倫理やインターネットの特性などを確認しながら考えさせ、解決策発想過程でサービス利用や情報発信について提言を考えさせることの動画教材が提案され、学生のワークシートと授業の流れが提示された。下記のような意見があった。

- ・ ワークシートは、重要性の判断や体験から考えさせることなどとしてはどうか。
- ・ 説明やワークシートの部分で、教員用資料側に持っていくなど、学生に答えを出さずに考えさせる方法も検討してはどうか。
- ・ 今回の内容は、情報操作や誹謗中傷など他社の発信に関する問題もあるが、一例として発信を中心に考えている。また、授業を録画したものを公表することなどの問題なども指摘してはどうか。
- ・ 到達点1, 2, 3のどの部分までを網羅しているのか、その後専門分野で教える部分にかなげられるか整理できないか。

2. 来年度の研究について

「情報リテラシー教育」では、初年次教育と専門教育を連携した情報リテラシー教育の進め方モデル提示、教材の作成、学修評価の方法、カリキュラムの見直しと組織的な教育体制、本モデルの理解促進と意見交流を行う新たな検討組織などを研究することにし、9月の「教育改革 ICT 戦略大会」に報告・意見を求め、必要に応じて見直しを行うことにしている。

「情報専門教育」では、オープンイノベーションに関与できる人材を育成するため、「構想力」、「問題解決力」、「実行力」を目指した分野横断型 PBL 授業について、起業学修を含む詳細設計をとりまとめ、「産学連携人材ニーズ交流会」に提案し、意見を求めることにしている。

新たに「データサイエンス教育」について、データから新たな知見を得て、課題を読みとり、問題解決や価値創造に関与できる ICT 活用人材の育成に向けて、文系・理系など幅広い分野の学生を対象としたデータサイエンス教育の目標、内容、方法等について調査・研究することになっている。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次回は3月24日に開催し、授業の教材（教材開発小委員会の作業内容と進捗状況）について確認することにした。